

令和4年度後期 武蔵野市寄付講座

市の寄付によって、大学が開設する特設講座です。後期は、亜細亜大学・成蹊大学・武蔵野大学の3大学で開講予定です。各大学の講座内容や日程などご確認のうえ、お申込みください。

※東京女子大学の令和4年度後期武蔵野市寄付講座は開講中止となりました。

亜細亜大学

現代教養特講

SDGsという現代の課題

コーディネーター

江川 美紀夫 (国際関係学部教授)
大塚 直樹 (国際関係学部教授)

日時

令和4年10月7日～令和5年1月20日
金曜日 (全13回)
午後1時15分～3時

成蹊大学

感染症と文学

コーディネーター

遠藤 不比人 (文学部教授)

日時

令和4年9月29日～令和5年1月19日
木曜日 (全14回)
午後4時50分～6時30分

武蔵野大学

市民が動き出す

私たちのまちづくり講座

コーディネーター

渡辺 裕一
(人間科学部社会福祉学科学科長・教授)

日時

令和4年9月28日～令和5年1月18日
水曜日 (全14回)
午後4時50分～6時30分

お申込みにあたり、下記をご確認ください。

- ・講師・日程・テーマ等の変更、また今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況により開講方法の変更や中止となる場合があります。ご了承のうえお申込みください。
- ・各回テーマや詳細は、チラシのP2～4でご確認ください。武蔵野地域自由大学ホームページ (<https://www.jiyu-musashino.org/>) や、自由大学通信 vol.75 でもご確認いただけます。
- ・寄付講座は、武蔵野地域自由大学ポイント付与対象講座です。各大学とも、4分の3以上の出席(受講)で、1ポイントが付与されます。
- ・当選が決定した方にご提出いただく書類等がございます。詳細はP4をご確認ください。

募集要項

- 対象：18歳以上で武蔵野市内在住・在勤・在学の方および武蔵野地域自由大学学生
- 定員：各大学50名(超えた場合は抽選)
- 費用：各大学5,000円(資料代)
- 申込方法：以下の①～④のいずれかの方法でお申込ください(自由大学学生以外の方は①～③)。
 - ①ハガキに「希望大学名、住所、氏名(フリガナ)、電話番号、生年月日、武蔵野市在勤・在学の方は勤務先・学校名、自由大学学生は学籍番号」を明記のうえ、自由大学事務局「寄付講座」係へ郵送(ハガキ1枚につき1講座)
 - ②直接武蔵野プレイス3階自由大学事務局窓口へ
 - ③「武蔵野市文化・スポーツ・生涯学習ネット」より申込
(URL: <https://yoyaku.musashino.or.jp/mnet/web/index.jsp?MODE=2>)
※インターネットでお申込の場合、結果通知の郵送はありません。
各自申込サイトで確認してください。
 - ④自由大学学生の方は自由大学事務局へ電話(0422-30-1904)



申込はこちら

●申込期間：7月15日(金)～7月29日(金) 必着

●抽選結果公開：8月10日(水)～各大学初日

お申込時にいただいた個人情報は「武蔵野市文化・スポーツ・生涯学習ネット」を運営する武蔵野文化生涯学習事業団が管理運営する施設の予約及び教室の実施・運営に必要な範囲内で使用いたします。それ以外の目的で使用することはありません。

主催：武蔵野市

問合せ：武蔵野地域自由大学事務局

〒180-0023 武蔵野市境南町2-3-18 武蔵野プレイス3階

TEL: 0422-30-1904

☞ 亜細亜大学「現代教養特講 SDGs という現代の課題」

コーディネーター：江川 美紀夫（国際関係学部教授）、大塚 直樹（国際関係学部教授）

日時：令和4年10月7日～令和5年1月20日

金曜日（全13回）午後1時15分～3時

内容：SDGsは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称である。それは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指す、2030年を年限とする17の国際目標である。この17の国際目標の下に、169のターゲットがある。それらは、国際社会として取り組むべき課題であると共に、各国がそれぞれに取り組むべき課題でもある。日本でも、近年大きな関心を集め、官民において、さまざまな形での取り組みが進んでいる。

貧困、飢餓、保健、教育、ジェンダー、水・衛生、エネルギー、成長・雇用、イノベーション、不平等、都市、生産・消費、気候変動、海洋資源、陸上資源、平和、実施手段のSDGsの17の目標は、いずれもこれまでに最重要テーマとして国際社会において、また各国内において、改善の努力が積み重ねられてきたが、課題も山積している。一筋縄ではいかない問題群である。

SDGsの内容は多岐にわたり、また世界のすべての国々を対象とするものであり、その全体をカバーすることは不可能であるが、各分野で活躍中の専門家を講師に迎え、それぞれの視点から、SDGsに関わるさまざまなテーマについて、お話しをいただく、というのが、本講義の趣旨である。

回	月日	テーマ	講師
1	10月7日	オリエンテーション	江川 美紀夫（国際関係学部教授）、 大塚 直樹（国際関係学部教授）
2	10月14日	チョコレートから考えるSDGs	吉野 慶一（Dari K株式会社代表取締役）
3	10月21日	SDGsラベリングと開発途上国の経済発展	道田 悦代（日本貿易振興機構アジア経済研究所主任研究員）
4	10月28日	SDGsと日本の意思決定	三苫 民雄（愛知産業大学短期大学国際コミュニケーション学科教授）
5	11月11日	ポストコロナ時代のアフリカ開発と日本	花谷 厚（JICA緒方貞子開発平和研究所主任研究員（元JICA職員））
6	11月18日	SDGs、その道のり：過去・現在・未来	春 具（元国際連合人事法務官、元化学兵器禁止機関人事部長）
7	11月25日	ミャンマーと日本の架け橋として ー亜細亜大学で約束した事ー	渋谷 ザニー（ファッション・デザイナー）
8	12月2日	海外ルーツの子ども達の現状と課題 ー共生社会実現に向けて、今私たちができること	田中 宝紀（NPO法人青少年自立援助センター 定住外国人支援事業部責任者）
9	12月9日	水資源とガバナンス	大塚 健司（日本貿易振興機構アジア経済研究所主任研究員）
10	12月16日	自治体におけるSDGsの広がり活用	高木 超（慶応義塾大学大学院政策メディア研究科特任助教）
11	12月23日	パレスチナ難民支援活動からSDGsを考える	山本 智子（特定非営利活動法人パレスチナ子どものキャンペーン事務局）
12	1月13日	映像記録が結ぶ過去と未来	遠藤 協（映像作家）
13	1月20日	里山に学ぶ	中野 達司（元亜細亜大学国際関係学部教授）

成蹊大学「感染症と文学」

コーディネーター：遠藤 不比人（文学部教授）

日時：令和4年9月29日～令和5年1月19日

木曜日（全14回）午後4時50分～6時30分

内容：長い歴史を通じて、人類は数々の疫病の蔓延という危機を経験してきたが、いわゆる新型コロナウイルス（Covid-19）も間違いなくその一つの例である。このオムニバス講義では、このような感染症の大流行を、これまで文学がどのような形で表現してきたのか、その詳細と次第を検討する。致死的な感染症は、筆舌に尽くしがたい恐怖を人の心に刻みつけてきたが、文学的表現はそのトラウマ的ショックを克服する方法でもあった。その観点からも、当該テーマは、コロナ禍を経験した私たちにも多くの示唆を与えてくれるはずである。

※ 対面講座を予定していますが、後期の感染状況を踏まえてオンラインに変更となる可能性があります。

回	月日	テーマ	講師
1	9月29日	ケアの視点から感染症文学を読む	小川 公代（上智大学教授）
2	10月6日	隠喩としての病（結核）	遠藤 不比人（文学部教授）
3	10月13日	菊池寛「マスク」を読む	大橋 崇行（文学部准教授）
4	10月20日	日本古典文学と病い	浅見 和彦（文学部名誉教授）
5	10月27日	両大戦間のアメリカ文学とパンデミック	宮脇 俊文（経済学部名誉教授）
6	11月10日	パンデミック、メディア、コミュニティ ——ヴァージニア・ウルフの場合	河野 真太郎（専修大学教授）
7	11月17日	グローバルな感染症とローカルな文学	鈴木 晃仁（東京大学教授）
8	11月24日	パンデミックとともに生きた劇作家シェイクスピア	塚田 雄一（文学部准教授）
9	12月1日	見えない病の伝わり方 ——Katherine Anne Porter, Pale Horse, Pale Rider (1939)	越智 博美（専修大学教授）
10	12月8日	濫喩としての感染 ——アメリカ文学思想史の視点から	巽 孝之（慶應義塾大学名誉教授）
11	12月15日	病の想像力／想像力の病	柿並 良佑（山形大学准教授）
12	12月22日	記録すること、記憶すること ——ダニエル・デフォー『ペストの記憶』を読む	武田 将明（東京大学准教授）
13	1月12日	パンデミックの（非）想像力と文学	石塚 久郎（専修大学教授）
14	1月19日	言葉と感染 ——語りから考える「伝染作用」	阿部 公彦（東京大学教授）

武蔵野大学「市民が動き出す私たちのまちづくり講座」

コーディネーター：渡辺 裕一（人間科学部社会福祉学科学科長・教授）

日時：令和4年9月28日～令和5年1月18日

水曜日（全14回）午後4時50分～6時30分

内容：まちづくりの担い手は「市民」です。地域にある様々な問題や生きづらさは、地域で暮らす誰にとっても、他人事ではありません。どこかで誰かが生きづらさを抱えている、そんな地域を誰もが自分らしく暮らせる地域に変えていくために、本講座では、市民のみなさんが仲間をつくり、ともにまちづくりに取り組む市民活動の方法や考え方を学びます。また、様々な市民活動の実践に取り組んでいる方をゲストスピーカーにお招きし、一緒にまちづくりや市民活動のワークショップを行います。

回	月日	テーマ	講師
1	9月28日	開講式・オリエンテーション つくりたいまちを語り合う	西本 照真（学長） 渡辺 裕一（社会福祉学科学科長・教授）
2	10月5日	伝える力①パブリック・ナラティブ	池本 修悟（アントレプレナーシップ学科教授）
3	10月12日	伝える力②やってみよう	池本 修悟（アントレプレナーシップ学科教授）
4	10月19日	伝える力③広報・発信	坂口 和隆（認定NPO法人シャプラニール＝市民による海外協力の会・代表理事）
5	10月26日	みんなが力を発揮できるチームづくり①	清水 潤子（社会福祉学科助教）
6	11月2日	みんなが力を発揮できるチームづくり②	平田 隆之（NPO法人市民プロデュース理事長）
7	11月9日	みんなが力を発揮できるチームづくり③	長浜 洋二（モジョコンサルティング合同会社代表）
8	11月23日	目指したいまちのビジョンを語る・共有する	中谷 美南子（チームやまびこ・評価コンサルタント）
9	11月30日	ビジョンと現実のギャップを知る	柳 姫希（社会福祉学科助教）
10	12月7日	ビジョンの実現に向けた道筋を整理しよう	清水 潤子（社会福祉学科助教）
11	12月14日	ビジョンの実現に向けた資源のマッピング	渡辺 裕一（社会福祉学科学科長・教授）
12	12月21日	ビジョンの実現に必要な資源をつくる①	浅井 美絵（ファンドレイザー・トレーナー〈フリーランス〉）
13	1月11日	ビジョンの実現に必要な資源をつくる② 成果発表会①	清水 潤子（社会福祉学科助教） 柳 姫希（社会福祉学科助教）
14	1月18日	成果発表会②・閉講式	渡辺 裕一（社会福祉学科学科長・教授） 西本 照真（学長）

当選が決定した方の提出物

- ・資料代 ……必要書類提出時に、武蔵野プレイス3階自由大学事務局でお支払いいただきます。（各大学5,000円）
 - ・受講同意書…抽選結果通知に用紙を同封します。
 - ・健康診断書…1大学につき1部（コピー可）、自治体で行われる健康診断でも結構です。
必須内容 ①受診者氏名 ②受診日（令和3年8月1日以降のもの）
③胸部レントゲン検査結果（レントゲンフィルム不要） ④医師の総合所見 ⑤担当医師名
 - ・証明写真 ……1大学につき1枚、ただし成蹊大学は不要。スナップ写真は不可。
- ※当選された方には、提出方法など詳細を郵送でご案内いたしますので、そちらもご確認ください。
- ※証明写真・健康診断書等、受講手続きに要する費用は、受講者の負担となります。
- ※提出期間：8月11日（木）～8月25日（木）